

(公 印 省 略)
三 人 第 1 6 1 号
令 和 5 年 1 2 月 1 日

各 区 長 様

三木市子どもいじめ防止センター
センター長 平田 美香

「子どもいじめ防止センターだより」の回覧について（依頼）

師走の候、貴職におかれましてはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、地域のまちづくり活動の推進について格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、別添のとおり「子どもいじめ防止センターだより 31号」をお届けいたします。

つきましては、子どもや保護者だけではなく、地域の皆様に子どものいじめ防止への理解を深めていただくために、誠に恐縮に存じますが、貴地区での「子どもいじめ防止センターだより」の回覧をお願い申し上げます。

記

- 1 送付物 「子どもいじめ防止センターだより 31号」
- 2 お届けの枚数 各地区の回覧枚数

【担当課】 市民生活部 人権推進課
子どもいじめ防止センター
TEL：82-8110 （三木市教育センター内）

ハートフル

三木市子どもいじめ防止センターだより

～きこえる いっしょに考えよう～



いじめの原因は“空気”?!

今から10年前、「いじめ防止対策推進法」が成立した年に、当時中学3年生の松竹景虎さんが「空気」と題した人権作文を書いています。

松竹さんは、作文を書いたから約半年後、いじめを苦に自ら命を絶ちました。学級委員長になったことをきっかけに、一部の人から「死ねば」などと悪口が始まり、次第に同級生の間に広まっていきました。その中には、仲の良かった友人まで含まれていたというのです。この作文は、NHK番組「いじめをノックアウト」で取り上げられ、話題となりました。次にその作文の一部を紹介します。

では、いじめの原因は何かを伝えよう。それは「空気」だ。
(中略) それが目に見えないものだから恐ろしい。

いじめをしなければ自分がやられてしまうという空気、いじめに参加しないといけない空気。いじめの加害者、主犯でさえも空気によって動かされているのだ。(後略)



松竹さんが言ういじめの“空気”とは、いったい何でしょう。それは、「自分は違う」、「おかしい」と思っている、他人の目を気にして、不安や恐怖からその気持ちを率直に出せないといった状況です。この“空気”のように、周囲の多数に合わせるように働く心理的な圧力のことを「同調圧力」と呼んでいます。目には見えないが確かに存在し、大人社会にも存在しています。加害者のいじめ行為がエスカレートしていくのも、この“空気”が関係しているのです。

松竹さんは、いじめ問題の解決方法として、みんなが親友になることや笑顔の大切さを訴えています。いじめに苦しみながらも、笑顔でなんとか乗り越えようとしていた松竹さんのことを思うと胸が痛みます。

いじめを生まない、加わらない、見て見ぬふりをしないため、ふだんからどんな人間関係や環境を作っておくべきなのか、あらためて私たちのまわりの“空気”について見つめ直してみましよう。

それで、君たちはどう生きる…??

今年、スタジオジブリの宮崎駿監督が10年ぶりに手がけた長編アニメ『君たちはどう生きるか』が話題になりました。この作品のタイトル（ストーリーは別もの）は、宮崎監督が少年時代に読んで感動したという吉野源三郎さんの名著『君たちはどう生きるか』（1937年）から借りたそうです。さらに今年、同書を漫画化した『漫画 君たちはどう生きるか』が再び注目を浴び、大ベストセラーになりました。

この物語では、父親を亡くした中学2年生の主人公（愛称“コペルくん”）が、様々な体験をもとに、“おじさん”との対話を通して人間のあるべき姿について考え、成長していきます。いじめや貧困などの問題を正面から取り上げ、「自ら考え行動する意味」を問いかけています。そこで、物語に登場するいじめのシーンについて紹介します。

「同調圧力」に負けないで…

“コペルくん”の同級生である浦川くんは、いじめっ子・山口くんのグループからいじめの標的にされていました。浦川くんは豆腐屋の息子、貧しい境遇でお弁当のおかずがいつも油揚げであったことから、「アブラアゲ」などと呼ばれバカにされていたのです。“コペルくん”をはじめ、まわりの同級生はというと、「浦川くんを助きたい」と思いつつも、山口くんたちが怖くて見て見ぬふりを続けていました。

「同調圧力」に負け、いじめを防ぐための行動を起こせなかったのです。

しかし、“コペルくん”の友人で正義感の強い“ガッチン”こと北見くんが、見るに見かねて山口くんに飛びかかり、取っ組み合いになります。するとクラスの大半が北見くんの味方になり、流れは一気に逆転しました。

ところが、いじめの被害者であるはずの浦川くんが、なんとこの同調する流れに反し、必死になって争いを止めたのです。

いったいなぜ浦川くんは、自分を苦しめ続ける相手を助けたのでしょうか。

このできごとについて、“コペルくん”の“おじさん”は次のように語っています。

ほんとは浦川くんだって、まわりの勢いに乗かってやり返したい気持ちもあったと思う。でも、あの中で…きっと想像してたんだ。一方的にやられるのが、どれだけイヤか…。まわりの流れに勇気をふりしぼって逆らった浦川くんは、本当に立派だと思うんだ…。

（『漫画 君たちはどう生きるか』より引用）



『漫画 君たちはどう生きるか』
吉野源三郎(著)、羽賀翔一
(イラスト)、マガジンハウス(刊)

いじめを受けてきた浦川くんは一方的に攻撃される者の痛みをよく知っており、加害者であっても同じ思いをしてほしくないという、やさしさと勇気に満ちた行動だったのです。これらのエピソードは、いじめを受けることのつらさや苦しさ、さらに「同調圧力」のもたらす悪影響とそれに負けない生き方について考えさせてくれます。

正しい方向に向かうために

“ガッチン”と浦川くんの勇気ある行動に胸を打たれた“コペルくん”は、友人が上級生からいじめられたら助けると約束します。数週間後、山口くんの兄たちが仕返しにやってきました。友人たちは逃げずに“ガッチン”を守りぬきます。ところが、その場に出くわした“コペルくん”は、隠れたままで何もできませんでした。そのことで“コペルくん”は、「自分がこんなに卑怯な人間だったとは…」と自分を責め、学校に行けなくなってしまう。親友を裏切り、悔やんでも悔やみきれない気持ちで毎日を過ごしていました。いじめというのは、見て見ぬふりをしてしまった者にも心の傷を残すのです。

寝込んでいる“コペルくん”に、お母さんが子どもの頃の体験談を聞かせます。お年寄りに声をかけて荷物を持ってあげようと思ったのに、できないままだったという話です。そして、やるべきことをできずに後悔したという経験を忘れなければ、その経験が将来の自分の背中を押してくれると語ります。



さらに、思い悩む“コペルくん”に、“おじさん”がこんなメッセージを贈ります。

コペル君、今君は大きな苦しみを感している。なぜそれほど苦しまなければならないか。それはね、コペル君、君が正しい道に向かおうとしているからなんだ。僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。だから、誤りを犯すこともある。しかし、僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。だから、誤りから立ち直ることもできるんだ。 (『漫画 君たちはどう生きるか』より引用)

人は誰でも、“コペルくん”と同じように失敗や挫折を経験し、それを悔んだり、悩んだりすることがあります。しかし、それを乗り越えることで自分をより成長させることができるのです。そのためには、コペルくんのお母さんや“おじさん”のような存在が大事になるのですが、その時々「自分はどうすべきなのか」を自らに問いかけ、答えを見つけていく姿勢や生き方が求められます。

どうする？「ネットいじめ」

近年、スマートフォン(スマホ)の普及や学校での一人一台端末の導入により、小・中学生のネット利用が高まっています。今年の本木市児童生徒インターネット利用調査によれば、小学1年生でスマホや携帯電話の所持率が約27%、中学3年生では約90%です。また、「ふだんからネットに接続」が小学1年生で73.0%、中学3年生では97.8%、「1日4時間以上接続」が小学1年生で6.1%、中学3年生で28.3%です。

このような状況を背景に、全国的に「ネットいじめ」(インターネットを使ったいじめ行為)が増加しています。文部科学省の調査によれば、パソコンや携帯電話などを使ったいじめの認知件数が令和3年度に2万件を越えました(右図)。



また、最近の「ネットいじめ」の傾向として、LINE(ライン)やX(イクス・旧ツイッター)での書き込みなどに加え、オンラインゲームでのいじめが目立ってきています。例えば、サバイバル型の戦闘ゲームのボイスチャット(会話機能)での、「へたくそ」、「バカ」、「消えろ」といった悪口や暴言です。ゲームが過激になればなるほど、言葉も過激になります。「ネットいじめ」は見えにくく、命に関わる問題に発展しやすいことを忘れてはいけません。

「ネットいじめ」を防ぐには、大人がネットの世界で起きていることにもっと関心を持ち、子どもと一緒に安全なネット利用について考えることが必要です。その中で、相手に気持ちをどう伝えるか、どんな言葉や行為がいじめにつながるのか、もしも自分や友人にトラブルが生じた時にどうするかなどについて話し合い、共通の認識を持つておくことが大切です。

今年、本木市子どもいじめ防止センターが設置されて10年を迎えました。本木市の子どもたちが安心して生活し、育つことのできる環境をつくるため、相談や啓発など、子どもを見守り、いじめを防止するための取組を行っています。

いじめのことでつらいことや困ったことがあれば、ぜひ相談してください。



三木市子どもいじめ防止センター

電話: **0794-82-8110**

相談日 月曜日～金曜日

ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp

